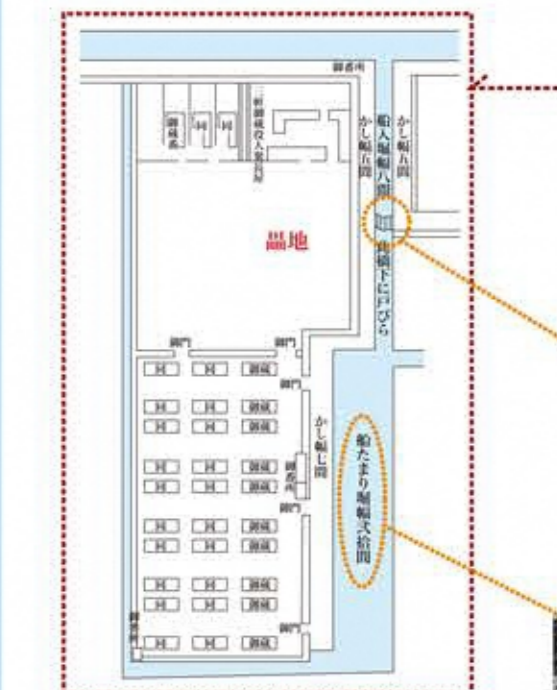


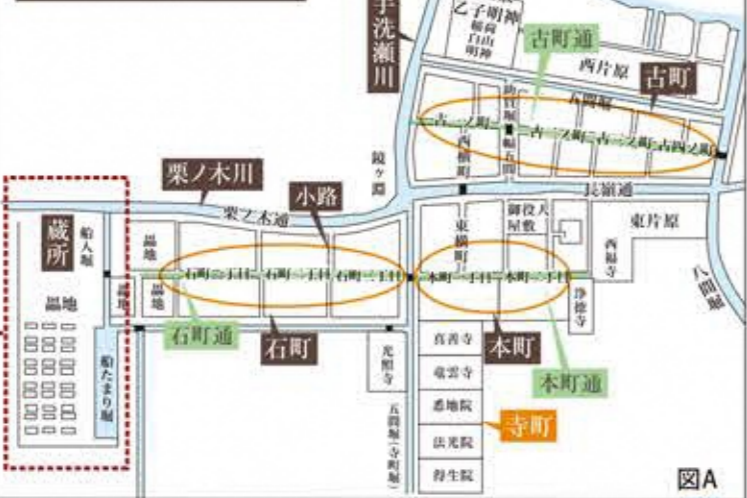
# 沼垂のまちなみ ①蔵所の町

沼垂町には新発田藩の年貢米を管理する蔵所(くらしょ)があり、米を買いに来る船に年貢米を売却したり、関西方面へ向かう船に積み出したりする基地となっていました。蔵所があったのは今の沼垂小学校の場所で、漆から奥まっているのは洪水で浸食されないしっかりした土地を選んだためでした。蔵所は「畠地(らいち)」と呼ばれる防火用の広い空き地に囲まれています。蔵所がいかに大事にされていたかがわかりますね。



蔵所のあと・現在は沼垂小学校(2015年撮影)

貞享元年(1684)  
「沼垂町割絵図」(部分)



蔵の守り神「高砂稲荷」。かっこいい龍にご注目!

# 沼垂のまちなみ ②石町エリア

小路でめぐる 白山神社~寺町

沼垂町は栗ノ木川と御手洗瀬川、寺町堀(五間堀)により石町(こくちょう)通、本町通、古町通の3つに区切られていました。石町通は米穀類を取り扱う店が多かったためにこの名がつけられました。堀と川は通りに平行して流れ、小路はそれらを結ぶように走っています。



沼垂町の総鎮守白山神社は町の移転や川欠けなどで何度か移転し、享保11年(1726)に現在地に落ち着きました(図A・B)。



乙子神社は湊の神様ニャ。

# 沼垂のまちなみ ③寺町エリア

小路でめぐる 沼垂寺町と市場

寺が並ぶ寺町は、本町通の東に配置されました。周辺で開かれていた朝市は、昭和30年に寺町堀の埋め立て地(現在地)に移りました。



寺町には、江戸中期の俳人・真野右之(うし)の阿弥陀を折り込んだ句碑「あらしふくみちはずけしたのあたり」があるのじゃ。



2015年に「沼垂テラス商店街」が誕生したニョ!みんなで行くニョ!

1 御役所小路(おやくしよこうじ):江戸時代、白山神社の隣に可役人の役所が置かれたことがあったことから、この名で呼ばれた。



沼垂白山神社からスタート!



2 おかめ小路(おかめこうじ):「おかめ」という美人の娘がいたことから、この名で呼ばれたという説がある。



3 太夫小路(たゆうこうじ):小路の角に金子家、二軒目に上田家の二軒の神官の屋敷があった。新潟言葉で神官を「たゆ様(太夫様)」ということから、この名で呼ばれた。



4 弥次右衛門小路(やじえもんこうじ):江戸時代、ここに弥次右衛門という新発田領藩原横越組の郷宿\*があったことから、この名が付いたと思われる。  
\*郷宿とは、御蔵に貢納米を船で運んできた人々が宿泊するための定宿のこと。



5 清八小路(せいはいちこうじ):明治初めの絵図には、小路の角に真野清八の屋敷が記されていることから、その名が由来と思われる。



6 西福寺小路(せいふくじこうじ):明治初めの絵図には、小路の角に金山作平の屋敷が記されている。その姓が名の由来と思われる。



7 西福寺小路(せいふくじこうじ):明治初めの絵図に、西福寺門前と記されている。通りから西福寺に通じる小路であったことから、西福寺小路と呼ばれるようになったと思われる。西福寺小路と略して呼ばれることも多い。



8 金山小路(かねやまこうじ):明治初めの絵図に、小路の角に金山作平の屋敷が記されている。その姓が名の由来と思われる。



2015年に「沼垂テラス商店街」が誕生したニョ!みんなで行くニョ!

# 沼垂のまちなみ ③寺町エリア

小路でめぐる 沼垂寺町と市場

寺が並ぶ寺町は、本町通の東に配置されました。周辺で開かれていた朝市は、昭和30年に寺町堀の埋め立て地(現在地)に移りました。



寺町には、江戸中期の俳人・真野右之(うし)の阿弥陀を折り込んだ句碑「あらしふくみちはずけしたのあたり」があるのじゃ。



2015年に「沼垂テラス商店街」が誕生したニョ!みんなで行くニョ!

9 石井小路(いしいこうじ):江戸時代、この小路と光照寺大門の間に、沼垂町の有力商人石井家の屋敷があった。その姓から石井小路と呼ばれたと思われる。この小路の下手にはかつて寺町堀が流れていた。



10 光照寺大門(こうしょうじだいもん):明治初めの絵図に、光照寺門前と記されている。通りから光照寺に通じる小路であったことから、光照寺大門と呼ばれるようになったと思われる。



2015年に「沼垂テラス商店街」が誕生したニョ!みんなで行くニョ!

